

〔論 文〕

絵本におけるクライとダケ

東寺 祐亮*, 美濃 祐子*²

*日本文理大学工学部

*²日本文理大学経営経済学部経営経済学科

Kurai and Dake in Picture Books

Yusuke TOJI*, Yuko MINO*²

*School of Engineering, Nippon Bunri University

*²Department of Business and Economics, School of Business and Economics, Nippon Bunri University

Abstract

Extensive research has indicated that reading picture books aloud supports language development in young children. In this context, the varied linguistic input provided by picture books plays a crucial role. However, this input is not entirely comprehensive, as some words spoken by young children may occur infrequently in picture books. In this study, we focused on the adverbial particles (*fukujoshi*) “*kurai*” and “*dake*,” which typically begin to emerge in children’s speech between the ages of 1.5 and 2.5 years. We investigated the extent to which these words are represented in the picture books through morphological analysis. The findings revealed that although input for “*kurai*” and “*dake*” can be acquired through picture book reading, “*kurai*” appeared in only 2 out of 40 books (13 instances), and “*dake*” appeared in only 3 out of 40 books (3 instances), indicating that neither word occurs frequently. Based on these findings, this study also proposes methods to increase the input of these words, such as through the use of singing and hand games.

キーワード：絵本, 形態素解析, 副助詞, クライ, ダケ

Keywords : picture books, morphological analysis, adverbial particles, *kurai*, *dake*

1. はじめに

絵本の読み聞かせが幼児の言語発達を促すことは、これまで多くの研究において指摘されている (DeBaryshe, 1993; Farrant & Zubrick, 2012; Reese & Cox

1999; Payne, Whitehurst & Angell, 1994; Whitehurst, Falco, Lonigan, Fischel, DeBaryshe, Valdez-Menchaca & Caulfield, 1988など)。絵本から得られる多様で豊富な言語インプットは、語彙獲得や構文理解の基盤として重要な役割を果たすと考えられている。しかし、そのようなインプットが必ずしも幼児が発話する語彙を網羅し

ているとは限らず、特に文法的機能語の中には、対象年齢によって出現頻度が低い語が存在する可能性がある。本研究では、副助詞のクライとダケに焦点を当て、絵本からどの程度のインプットが得られるのかを形態素解析によって調査する。その調査を踏まえて、これらの副助詞のインプットをさらに増加させるための活動を示す。

幼稚園教育要領（2017: 16）と保育所保育指針（2017: 30）は、幼児の言葉について、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と述べている。さらに、幼稚園教育要領（2017）の「言葉」の「内容」において、「しったり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する」（p. 16）とある。

幼児がそのような活動を行う際、自分自身が見聞きしたことを表現する方法は、言語表現・非言語表現を含め多岐にわたるが、その程度や範囲の限定を表現しようとする際に、副助詞のクライやダケを使用して表現することは一つの手段である。たとえば、幼児が動物園で見たゾウの大きさを表現しようとする際に、「おうちくらい大きかった」と表現したり、動作を交えて「これくらい大きかった」と表現したりすることができる。あるいは、「みかちゃんだけおかしなべてずるい」と表現して、出来事について「みかちゃんだけ」という限定された対象範囲を表すことができる。

このような表現を可能にするクライは2:05（2歳5カ月）ごろから、ダケは1:11（1歳11カ月）ごろから幼児が発話し始めることが報告されている（永野 1959; 大久保 1967）。永野（1959）は、クライが2:08に「コノクライナラ、ダイジョウブ？（永野 1959: 393）」という例で、ダケが2:02に「サルモーワンワントー……サルトーワンワント……ニャーニャトソイダケ。」（p. 391）という例で観察されたことを指摘している。大久保（1967）は、クライが2:05に「四ツカクライ。（p. 96）」という例で観察されたこと、ダケが1:11に「コレダケ。」（p. 92）という例で発話され始めたことを指摘している。つまり、クライについてもダケについても1歳後半～2歳後半までに発話し始めていることになる。

ということは、これらを発話した幼児は、それよりも以前に人的・物的言語環境からクライやダケのインプットを得ていると考えられる。CHILDES データベース（MacWhinney 2000）に収録されている Noji コーパス（Noji 1973-77）においても、子ども（Sumihare）と母親の会話において、母親がダケを使用して指示を出し、子どもがダケを使用して聞き返す会話が観察され、人的

言語環境からのインプットがあることがうかがえる¹。

では、絵本をはじめとした物的言語環境においては、どの程度これらの語のインプットがあるのだろうか。平・藤田・小林（2012）は大規模書店売り上げ冊数上位547位までの505冊の絵本を対象に形態素解析を行い、高頻度語彙上位400語までを示している。その中で、ダケ（103位）の文書頻度が156、延べ頻度が309であることを報告している。しかし、絵本の対象年齢が絞られておらず、クライやダケを発話し始める時期に読まれる絵本にどの程度のインプットが含まれるかは明らかでない。絵本のテキストを対象とした形態素解析方法を提案している藤田・平・小林・田中（2014:534）は、絵本について対象年齢と共に助詞の割合が単調増加しており、絵本の表現が単語の羅列から助詞などを含む文に変化することを指摘しているが、具体的なそれぞれの助詞については議論がない。鈴木（2020）は、絵本が対幼児発話よりも複雑な文構造や多様な文法情報含んでいることを明らかにしているが、鈴木（2020）においても具体的なそれぞれの助詞についての議論はない。

そこで、本研究では、クライやダケの発話が始まる1歳後半～2歳後半までの幼児を主な対象とした絵本において、どの程度の副助詞クライ・ダケのインプットが得られるのかを明らかにする。具体的には、福音館書店が「年齢別おすすめ本」として示している「赤ちゃんにおすすめの絵本」～「2・3才におすすめの絵本」の絵本を対象に形態素解析を行い、クライ・ダケの出現頻度を調査する²。

本稿の構成は以下の通りである。2節においては絵本を対象とした形態素解析の方法について説明する。3節においては、調査の結果、いずれの語も出現してはいるものの頻度が低かったことを報告する。4節においては、インプットの機会を増やすことにつながりうる歌あそびや手あそびを紹介する。5節においては、議論をまとめ、今後の研究課題を示す。

2. 方法

2-1 調査対象

調査対象となる絵本は、福音館書店ウェブサイトの「年齢別おすすめの本」の「赤ちゃんにおすすめの絵本」（以下「赤ちゃん」と呼ぶ）に掲載されている24冊と、「2・3才におすすめの絵本」（以下「2・3才」と呼ぶ）に掲載されている16冊の、計40冊である（各絵本の文献情報は付記に「赤ちゃん」「2・3才」別に詳細を記す）。福音館書店の「年齢別おすすめの本」を対象とした理

由は、(i)勤める対象年齢が示されており、ダケやクライを産出し始める1歳後半～2歳前半を含む時期に読み聞かせの対象となる絵本を選定できること、(ii)公共の図書館に広く所蔵されており、だれでも利用することができること、の2点である。「赤ちゃん」対象は、次の対象年齢が「2・3才」であることから「0・1才」と考える。

2-2 調査方法

調査にあたって、絵本のテキストのみを著者がデータ化し、そのテキストデータに形態素解析を行った。形態素解析には「web茶まめ」(堤・小木曾 2023)を使用した。web茶まめは国立国語研究所によって運営されている形態素解析ウェブサイトである。解析にあたって、「語彙素」「語彙素読み」「品詞」の情報を確認した。絵本はテキストがひらがなで書かれていること、句読点がない場合も多いことなどから、そのままテキストを形態素解析しても適切に解析されない。そのため、適切に解析されない箇所については、文意を変更しないように漢字仮名交じり文にしようとして解析を行った。また、誤った解析が行われていると判断した箇所については著者が手作業で修正した。主に、単語・品詞・形態素境界の解析が不適切であった場合に修正した。(1)はその修正例である。

- (1) がおーっと (『たんたんぼうや』(1998) より)
 解析結果:が(助詞) おっと(感動詞)
 修正後:がおー (名詞) と(格助詞)

3. 結果

形態素解析調査の結果、クライとダケの頻度は表1の通りであった。まず、クライの使用例と頻度について説明する。クライは「赤ちゃん」対象の絵本において使用例が観察されなかった。「2・3才」対象については2冊において13例が観察された。クライの使用例を(2)に、頻度を表1に示す。なお、クライとグライは異形態として集計している。

- (2) a. おつきさまぐらいのめだまやき
 (『ぐりとぐら』(1967))
 b. ちゅうぐらいのは
 (『3びきのくま』(1962))

次に、ダケの使用例と頻度について説明する。ダケは「赤ちゃん」対象の図書については1冊において1例観察

された。「2・3才」対象については2冊において2例観察された。ダケの使用例を(3)に、頻度を表1に示す。

- (3) うさぎだけはかくれないで
 (『もりのなか』(1963))

表1 クライ・ダケの頻度

対象年齢	クライ	ダケ
赤ちゃん	0	1
2・3才	13	2
合計	13	3

幼児に対して推奨年齢通りに絵本の読み聞かせを行うと想定した場合、永野(1959)・大久保(1967)におけるクライの発話時期が2:05-2:08であることを踏まえると、発話時期と同時期に絵本からのインプットを得られることになる。クライの40冊中2冊13例という頻度を鑑みると、クライを使用している絵本では多様なインプットを得られるが、クライを使用している絵本は多くないといえる。また、ダケにおいては、先行研究におけるダケの発話時期が1:11-2:02であることを踏まえると、発話時期と同時期か少し遅い時期に絵本からのインプットを得られることになる。ダケの40冊中3冊3例という頻度を鑑みると、クライと比較してダケを使用している絵本の対象年齢には幅があるが、インプットが多く得られるわけではないといえる。

本調査結果より、クライ・ダケの絵本によるインプットは、先行研究が示すクライ・ダケの発話時期と同時期か少し遅い時期に得られることが確認された。しかし、その頻度は高いとはいえず、必ずしも絵本によってインプットが得られるとは限らない。

4. 歌あそび・手あそび

クライ・ダケのような絵本における頻度が低い語彙について、物的言語環境からインプットを得る機会を増やしたいと考える場合、どのようなアプローチがあるだろうか。本稿では、歌あそびや手あそびといった物的言語環境からクライ・ダケといった語と接する機会を増やす方法を示しておく。

副助詞クライを含む歌あそび・手あそびには「おべんとうばこのうた」(植田 2006:34-35)や「てんぐのはな」(作詞・作曲・振付:浅野ななみ, 阿部 2011:242-243)がある。まず、「おべんとうばこのうた」を見てみよう。「おべんとうばこのうた」は(4a)に示すように「指示

語+くらい」の歌詞が含まれている。植田（2006）では（4b）の手あそびとともに紹介されており、指でお弁当箱の形を描くことで、「これくらい」という表現がお弁当箱の大きさを表していることを体感することができる。

(4) おべんとうばこのうた (植田 2006:34-35)

a. クライを含む歌詞

これっくらいの おべんとうばこに

(植田 2006:34)

b. 手あそび

両手の人さし指でお弁当箱の形を2回描く。

(植田 2006:34, ①)

出典:『「いつ」「どのように」使えるかがわかる!! 手あそび百科』植田光子 編集/ひかりのくに刊

「てんぐのはな」にもクライが含まれる。たとえば(5a)に示すように「指示語+くらい」の歌詞が含まれている。阿部（2011）では、(5b)の手あそびとともに紹介されており、鼻先につけて伸ばすことで、「このくらい」が天狗の鼻の長さを表していることを体感することができる。

(5) てんぐのはな (作詞・作曲・振付:浅野ななみ)

a. クライを含む歌詞

おととととと このくらい

阿部 (2011:242)

b. 手あそび

手をグーにして鼻先につけ、少しずつ前に伸ばして適当なところで止めます。

阿部 (2011:243, 2)

出典:『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた150曲』阿部直美監修/日本文芸社刊

副助詞ダケが含まれている歌あそびとしては、「かたたたき」(作詞・作曲:阿部直美, 阿部 2011:54)がある。(6)に示すように「副詞+ダケ」の歌詞が含まれており、大きさの範囲が「ちょっと」と限定している。阿部（2011）には「子どもが祖父母の肩を歌いながらリズムカルにたたきます。」(p.54)と紹介されており、力加減の範囲を体感することができる。

(6) かたたたき (作詞・作曲:阿部直美)

ちょっとだけおおきく (阿部 2011:54)

出典:『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた150曲』阿部直美監修/日本文芸社刊

以上のように、物的言語環境からインプットを得る機会をさらに増やしたいと考える場合、歌あそびや手あそびを用いることができる。

5. まとめと課題

本研究では、福音館書店ウェブサイトの「年齢別おすすめの本」において「赤ちゃん」を対象に勧められている24冊と、「2・3才」を対象に勧められている16冊の計40冊を対象に形態素解析を行い、副助詞クライ・ダケの出現頻度を調査した。その結果、(i)これらの絵本の読み聞かせでクライ・ダケのインプットが得られること、(ii)クライは40冊中2冊13例という頻度、ダケは40冊中3冊3例という頻度であること、の2点が明らかになった。つまり、クライ・ダケという語は読み聞かせによって頻繁にインプットを得られる語ではないということである。

鈴木（2020）が指摘するように、絵本は対幼児発話よりも複雑な文構造や多様な文法情報を含んでいる。しかし、副助詞のように、絵本の推奨年齢の幼児がすでに発話している語でも頻度が低い場合がある。このような語との接点を増やそうとする場合、クライやダケを含む歌あそびや手あそびを利用することで、多様なインプットを得る機会を増やせるのではないかと。

本研究では副助詞クライ・ダケの出現頻度を調査したが、調査における課題と、幼児保育の現場への応用における課題があると考えている。まず、調査における課題として、バカリ・シカ・カ・ヤなどの他の副助詞の頻度についても調査する必要があることが挙げられる。バカリやシカについては同様に頻度が低い可能性があるが、会話文でも頻繁に使用されるカ・ヤについても同様に低い頻度であるかは不明である。また、本研究では、クライ・ダケの発話の初出時期から「赤ちゃん」と「2・3才」の絵本のみを対象としたが、「4才」「5才」にまで対象を広げることで、頻度が変化する可能性がある。藤田他（2014:534）において、絵本では対象年齢と共に助詞の割合が単調増加することが指摘されているためである。

次に、幼児保育の現場への応用における課題として、現場にどのように導入するのか、そして、導入した場合に幼児からどのような反応が得られるのかを調査する必要がある。たとえば、クライが含まれる絵本（(2a)の『ぐりとぐら』など）の読み聞かせを実施して、幼児に「みんなもお家で卵をたべたことある?」「どのくらい大きかった?」、また、「どれくらい大きい卵を見たことがある?」などと問いかけることで、幼児の反応や、仲間とのやり取りを引き出すことができる。それにより、

幼児が見たり聞いたりしたことについての程度の説明を含めて各自の経験を表現する機会を作ることができるのではないだろうか。また、絵本の読み聞かせを契機に、ペーパーアートやパネルシアターにつなげることで、幼児がさまざまな形式でのインプットを得られるように工夫することができる。これらの課題については、今後調査・研究を進めていく。

参考文献

- 阿部直美（監修）2011『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた150曲』, 日本文芸社.
- DeBaryshe, Barbara. D. 1993 Joint picture-book reading correlates of early oral language skill. *Journal of Child Language*, 20 (2), pp. 455-461.
- Farrant, Brad. M. & Zubrick, Stephen. R. 2012 Early vocabulary development: The importance of joint attention and parent-child book reading. *First Language*, 32, pp. 343-364.
- 厚生労働省 2017『保育所保育指針』, https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_sodachi_yushiki/dail/sankou2.pdf. (2025/05/01確認)
- 文部科学省 2017『幼稚園教育要』, https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_sodachi_yushiki/dail/sankou1.pdf. (2025/05/01確認)
- MacWhinney, Brian. 2000 *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk*. Third Edition. Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
- 永野賢 1959「幼児の言語発達について:主として助詞の習得過程を中心に」『ことばの研究』1, pp. 383-396, 国立国語研究所. (<http://doi.org/10.15084/00001725>)
- Noji, Junya. 1973-77 *Yooji no gengo seikatsu no jittai I-IV*. Bunka Hyoron Shuppan.
- 大久保愛 1967『幼児言語の発達』, 東京堂出版.
- Payne, Adam. C., Whitehurst, Grover. J. & Angell, Andrea. L. 1994 The Role of Home Literacy Environment in the Development of Language Ability in Preschool Children from Low-income Families. *Early Childhood Research Quarterly*, 9 (3-4), pp. 427-440.
- Reese, Elaine. & Cox, Adell. 1999 Quality of Adult Book Reading Affects Children's Emergent Literacy. *Developmental Psychology*, 35 (1), pp. 20-28.
- 鈴木孝明 2020「絵本の文法:日本語の絵本テキストにお

ける文法の複雑さと多様性」『読書科学』, 61(3,4), pp. 154-164.

- 堤智昭, 小木曾智信 2023「複数の UniDic 辞書による形態素解析支援ツール『Web 茶まめ』の実装と運用」『情報処理学会論文誌』, 64 (3), pp. 749-757.
- 植田光子 2006『「いつ」「どのように」使えるかがわかる!! 手あそび百科』, ひかりのくに.
- Whitehurst, G. J., Falco, F. L., Lonigan, C. J., Fischel, J. E., DeBaryshe, B. D., Valdez-Menchaca, M. C., & Caulfield, M. 1988 Accelerating Language Development Through Picture Book Reading. *Developmental Psychology*, 24 (4), pp. 552-559.

資料

- 福音館書店ホームページ <https://www.fukuinkan.co.jp/> (2025/04/23確認)
- web 茶まめ <https://chamame.ninjal.ac.jp/> (2025/04/23確認)

付記

調査対象図書

○赤ちゃんにおすすめの絵本

- 『いちご』, 平山和子 作, 1989, 福音館書店.
- 『おつきさまこんばんは』, 林明子 作, 1986, 福音館書店.
- 『おやすみなさいコッコさん』, 片山健 作・絵, 1988, 福音館書店.
- 『うずらちゃんのかくれんぼ』, きもとももこ 作, 1994, 福音館書店.
- 『かささしてあげるね』, はせがわせつこ 文/にしまさかやこ 絵, 1998, 福音館書店.
- 『きんぎょがにげた』, 五味太郎 作, 1982, 福音館書店.
- 『くだもの』, 平山和子 作, 1981, 福音館書店.
- 『ここよここよ』, かんざわとしこ 文/やふうちまさゆき 絵, 2003, 福音館書店.
- 『ごぶごぶごぼごぼ』, 駒形克己 作, 1999, 福音館書店.
- 『ころころころ』, 元永定正 作, 1984, 福音館書店.
- 『じどうしゃ』, 寺島龍一 画, 1966, 福音館書店.
- 『しゅっぱつしんこう!』, 山本忠敬 作, 1984, 福音館書店.
- 『ずかん・じどうしゃ』, 山本忠敬 作, 1981, 福音館書店.
- 『たまごのあかちゃん』, かんざわとしこ 文/やぎゆう

げんいちろう 絵, 1993, 福音館書店.
『たたんぼうや』, かんざわとしこ 文/やぎゆうげん
いちろう 絵, 1998, 福音館書店.
『ちいさなうさこちゃん』, デイック・ブルーナ 文・
絵/いしいももこ 訳, 1964, 福音館書店.
『でてこいでてこい』, はやしあきこ 作, 1998, 福音館
書店.
『てんでてん』, わかやましずこ 作, 1998, 福音館書
店.
『どうぶつのおかあさん』, 小森厚 文/薮内正幸 絵,
1981, 福音館書店.
『ぶーぶーじどうしゃ』, 山本忠敬 作, 1998, 福音館書
店.
『ぼんちんぱん』, 柿木原政広 作, 2014, 福音館書店.
『まるくておいしいよ』, 小西英子 作, 1999, 福音館書
店.
『もうおきるかな?』, まつのまさこ 文/やぼうちまさ
ゆき 絵, 1998, 福音館書店.
『よくきたね』, 松野正子 文/鎌田暢子 絵, 2009, 福
音館書店.

〇2・3才におすすめの絵本

『3びきのくま』, トルストイ 文/バスネツォフ 絵/お
がさわらとよき 訳, 1962, 福音館書店.
『あいうえおうた』, 谷川俊太郎 文/降矢なな 絵,
1999, 福音館書店.
『いやだいやだ』, せなけいこ 作・絵, 1969, 福音館書

店.
『おおきなかぶ』, A・トルストイ 再話/内田莉沙子
訳/佐藤忠良 画, 1966, 福音館書店.
『おやすみなさいのほん』, マーガレット・ワイズ・ブ
ラウン 文/ジャン・シャロー 絵/いしいももこ
訳, 1962, 福音館書店.
『かばくん』, 岸田衿子 作/中谷千代子 絵, 1966, 福
音館書店.
『ぐりとぐら』, なかがわりえこ 作/おおむらゆりこ
絵, 1967, 福音館書店.
『三びきのやぎのがらがらどん』, マーシャ・ブラウン
絵/せたていじ 訳, 1965, 福音館書店.
『ぞうくんのさんぽ』, なかのひろたか 作・絵/なかの
まさたか レタリング, 1977, 福音館書店.
『てぶくろ』, エウゲーニー・M・ラチョフ 絵/うちだ
りさこ 訳, 1965, 福音館書店.
『どうすればいいのかな?』, わたなべしげお 文/おお
ともやすお 絵, 1980, 福音館書店.
『ねないこだれだ』, せなけいこ 作・絵, 1969, 福音館
書店.
『はなをくんくん』, ルース・クラウス 文/マーク・シー
モント 絵/きじまはじめ 訳, 1967, 福音館書店.
『みんなうんち』, 五味太郎 作, 1981, 福音館書店.
『めのまどあけろ』, 谷川俊太郎 文/長新太 絵,
1984, 福音館書店.
『もりのなか』, マリー・ホール・エッツ 文・絵/まさ
きるりこ 訳, 1963, 福音館書店.

1 具体的には以下の会話である。*MOT が母親の発話, *CHI がそれに対する子どもの発話である。

*MOT:それだけ皆持って来て下さい。

*CHI:これだけ?

(Noji1973-77, 2:03. 00)

2 福音館書店ホームページの「年齢別おすすめの本」では「赤ちゃん」「2・3才～」と記載されている。それぞれのリンクに進むと「赤ちゃんにおすすめの絵本」「2・3才におすすめの絵本」と記載されている。本稿では後者の名称を使用している。